

こ び 子生川周辺 - ため池 -



山ぎわに湿地のあるため池



水草の豊富なため池

選 定 理 由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 13種（面積約60ha）

自然の概要

海に面した平野部と丘陵地の接する地域で、谷にはため池が存在し、コウホネなど水生植物が生育しています。また、ため池の周囲が陸化した草地には、湿地を好むハンゲショウが生育し、湿地と草地を利用するエゾトンボが生息しています。

保全すべき 主な環境

ため池

該当地の位置



里の生き物紹介 コウホネ（スイレン科）

湖沼、ため池、河川、水路などに生育する水草で、6～9月に黄色い花を咲かせます。水質が比較的富栄養でも生育しますが、県内で生育している場所は限られています。

コウホネやジュンサイなどの水草は、水路や岸辺に生えると、水の疎通や舟の運航上の障害になる嫌われ者ですが、水中で生活する魚類や昆虫にとっては、なくてはならない存在です。水草は、水棲動物にとってのアパートのようなもので、隠れ家、休息の場、エサ場、稚魚のすみかになるなど、様々な機能を持っています。

ブラックバスやブルーギルなど肉食性の外来魚がいても、水草のおかげでメダカやヤゴなど在来の生物が逃げ残っている例が報告されており、水草の機能が注目されています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



メダカ
県域絶滅危惧 類
池と沼、河川下流部の岸
辺、水田とその用排水路
に生息



ホソミイトトンボ
県域絶滅危惧 類
池沼、湿地に生息する。
未熟成虫の生活場所とな
る周辺の樹林や草地が必
要



ハンゲショウ
県域絶滅危惧 類
低地の水辺や湿地



エゾトンボ
要注目
比較的草地化の進んだ放
棄水田で生育し、周辺林
で採餌



コウホネ
要注目
湖沼、ため池、河川、水
路に生育